

令和4年度事業報告書

令和4年1月1日～令和4年12月31日

令和4年度事業活動として下記の事業を行った。

1. ウェビナー「Baseballと野球、それぞれの戦術 ～日本における野球文化とその戦術」の開催
2. 日米草の根交流サミット2022の開催
 - ① 日米草の根交流サミット in 小布施
 - ② 国際草の根交流サミット式典・コンベンション
 - ③ 日米草の根交流フォーラム in 父島
3. 日米草の根交流サミット2023 オハイオ大会の開催準備
4. 2024年以降の日米草の根交流サミット開催準備
5. 広報活動

1. ウェビナー「Baseballと野球、それぞれの戦術 ～日本における文化とその戦術」の開催 <定款上の該当条項:第1章第4条>

開催地: オンライン

開催日: 2022年4月23日 午前8時～

共催: CIE-US、EngageASIA

参加人数: 約140名

司会進行: デイビッド・ジェーンズ CIE-US 理事

スピーカー: 加藤良三氏(元駐米大使、第12代日本プロ野球コミッショナー)

トーマス・シーファー氏(元駐日大使、テキサス・レンジャーズ元球団社長)

マリヨン・ロバートソン氏

(元オリックス・バッファローズ・エグゼクティブ・アドバイザー)

内容: 未だコロナ感染の不安が払しょくされない中、日米交流を継続すべくオンライン活動としてウェビナーを開催した。

アメリカの球技「ベースボール」が日本に伝来して150年を記念し、CIE-USとの共催で、ベースボールと野球がスポーツとして草の根レベルから外交レベルにおいて日米友好の構築に大きな役割を果たしてきた時代的背景と、ベースボールがやがて「野球」という日本の国民的スポーツに発展した文化的背景について追及した。

また、今年がアメリカ大統領令9066号の発令から80年、更に沖縄返還50周年でもあることから、日米の負の歴史にも触れ、そのような時期でも野球が日米間の融和に非常に重要な役割を果たしたことが語られた。

コロナ禍によるオンライン交流が続く中、聴講者からは、娯楽である野球を通じた日米友好の近代史について改めて学ぶ良い機会だったとの感想が多く寄せられた。

2. 日米草の根交流サミット 2022 の開催 <定款上の該当条項:第1章第4条>

年初よりコロナ感染の不安が残り、水際対策緩和の見通しも立たないことにより、予定していた年内の和歌山大会の実施は中止となり、2024年開催に向けて再延期となった。急遽代替プログラムとして、小規模ながらも10月31日から11月12日にかけて「日米草の根交流サミット in 小布施」「国際草の根交流サミット式典・コンベンション」「日米草の根交流フォーラム in 父島」の3つのイベントを実施することができ、3年ぶりに対面での日米市民による交流の再開を祝った。コロナ感染対策に準じて従来とは形態を変えた日米草の根交流サミットとなったが、国籍を超えた市民が集まり、日米・世界の友好交流の重要性、対面での交流の温かみや大切さを確認したイベントとなった。

① 「日米草の根交流サミット in 小布施」

開催地： 長野県小布施町

開催日： 2023年10月31日(月)～11月4日(金)

共 催： 小布施町、CIE-US

運 営： 日米草の根交流サミット 2022 in 小布施 実行委員会

アメリカからの参加者： 14名

小布施サミット参加者総数： 約88名 (ホストファミリー、実行委員会、支援者、その他関係者及び上記参加者含む)

概 要： コロナ感染の心配が払拭されない中でも、国際交流を再開したいという強い思いを持つ長野県小布施町の有志たちの協力を得て、まさに草の根活動により小布施の町民と町を動かし、3泊4日のホームステイを含む交流プログラムの開催が実現に至った。

小布施町は、栗の町そして葛飾北斎が晩年を過ごした町としても知られている。また、他を受け入れてもてなす習慣が根付き、若い力と共に協働する町で、アメリカ人参加者たちは日本文化を体験し、温かいホスピタリティに触れ、町民たちとの新しい友好を育んだ。

● 10月31日(月)

参加者たちは全米各地からそれぞれ羽田空港、成田空港に降り立ち、CIE および近畿日本ツーリストのスタッフの出向かいにより羽田空港近くの JAL City Hotel 羽田に到着した。

●Day 1 11月1日(火)

出発：羽田出発前にコロナ感染対策のため、参加者及びスタッフ全員の抗原検査不検出を確認し、バスで一路小布施へ向かった。

開会式：

小布施町役場に到着した参加者たちは委員会メンバーやボランティアたちに迎えられ、役場講堂にて開会式が開催された。市村良三実行委員長、石川和秀CIE理事長、桜井昌季町長による挨拶の後、「北斎太鼓」の勇壮な演奏、折り紙を使った交流を楽しんだ。

まちづくり講話・まち歩き：

小布施町総合政策推進専門官による小布施の歴史、まちづくりの変遷に関する講義が行われ、参加者からは多くの質問が寄せられた。その後、生憎の雨模様の中、町内のオープンガーデンや町並修景事業の様子を自らの足で周り、体感した。

歓迎会（於 小布施堂）：

歓迎会では小布施堂に協力いただき、参加者・運営関係者と共に、秋の味覚が詰まった美味しい食事をいただいた。枡一市村酒造のお酒で盃を交わし、互いの距離を縮める時間となった。小布施ならではの食事と日本酒は参加者たちにも大好評で、プログラム初日にふさわしいひと時となった。

●Day 2 11月2日(水)

小布施文化体験プログラム：味噌づくり見学（於 穀平味噌醸造場）：

実行委員会の企画運営によるプログラムで、創業200年以上の老舗である味噌醸造所や酒蔵の見学、銘物の栗おこわの昼食、茶道体験や北斎館見学など、小布施ならではの日本文化を体験した。それぞれの施設で働く方々や、町民との交流も交え、貴重な体験をした。

協力： 穀平味噌醸造場（味噌づくり見学）

松葉屋本店（酒蔵見学）

桜井甘精堂 泉石亭（昼食、茶道体験）

茶道講師、和菓子いちむら

北斎館

●Day 3 11月3日(木)

ホストファミリーと過ごす一日：

文化の日の祝日、参加者たちは9件のホストファミリーの元でそれぞれの家族やその友人たちと一緒に過ごした。町内を巡って秋を味わったり、町外の日本らしい文化施設を訪れ交流を深めたりと、家庭ごとの思いのこもったおもてなしを堪能したひと時となった。

●Day 4 11月4日(金)

閉会式・送別ランチ：

ホストファミリーや交流を深めた町民たちも集まる中、小布施町役場講堂にて

閉会式が行われた。小山洋史実行委員、小林一広小布施町議長、中村（中濱）文氏、スコット・ホイットフィールド氏、マシュー・ペリー氏らの挨拶の後、立食パーティーが用意された。実行委員会が用意したアルバムが、ホストファミリーからそれぞれの参加者へ送られ、短い時間の中でも、親密な交流ができたことを確認し、これからの長い交流を約束した。

② 「国際草の根交流サミット式典・コンベンション」

開催地： ベイサイドホテル・アジュール竹芝（東京都港区）

開催日： 2023年11月5日(土)

共 催： CIE-US

後 援： 米国大使館

参加者総数：103名

概 要：コロナ禍により急遽進められた通常サミットに代わる今回のサミット式典は、小布施サミットのクロージングセレモニー、父島フォーラムのオープニングセレモニーとして、また「グローバル社会と平和」をテーマにした、草の根交流の重要性と平和貢献について考えるコンベンションとして開催。通常サミットとは異なり、日米の友好に関心のある方なら誰でも参加できる式典とした。日米他、様々な国籍を持つ参加者たちは、万次郎とホイットフィールド船長の子孫らと共に集い、3年ぶりに対面で日米の友好を祝えた喜びを分かち合った。

また、通常行われている地球儀交換に代わり、今回は特別に用意したバンダナへのサイン交換を行い、参加者たちは式典で知り合った方とのサインをきっかけに新たな出会いの交流を楽しんだ。

主なプログラム：

- ジョン万次郎・メモリアルオーケストラによる弦楽四重奏
- 特別講演「戦場写真家の伝えたいこと」青木弘氏
- 「グローバル社会と平和 ～先祖からのメッセージ」中濱京氏
- 第30回日米草の根交流サミット2023inオハイオ大会紹介
- 懇親会

③ 「日米草の根交流フォーラム in 父島」

開催地： 父島

開催日： 2023年11月6日(日)～12日(土)

共 催： CIE-US

協 力： セーボレー孝氏、小笠原村、都立小笠原高校

後 援： 米国大使館

参加者総数：約150名

概 要：この父島フォーラムは、愛媛県の時計屋さんが父島に最初に入植した

アメリカ人の子孫がペリー提督から贈られた星条旗を戦争により失ったことについての新聞記事を読み、そこから始まった小さな交流がきっかけで今回の開催に至った。ペリー提督や万次郎、そして捕鯨船のホイットフィールド船長にもゆかりが深い父島で、父島最初の入植者の一人ナサニエル・セーボレーが紡いだ友情の絆に付随する一つ一つの小さなパーツが現代で再度つながり、父島と4人の足跡や功績をたどるレクチャー交流という形で実現した。

また、小笠原村役場や小笠原高校のご協力の下、小笠原や父島の歴史を学びながら、島民たちとの交流と小笠原の世界遺産の大自然も楽しんだ。

●11月6日(日)

前日までに行われたPCR検査を全参加者がクリアし、日米の参加者たちは11時発の小笠原丸に乗り込み、東京から約1,000km離れた父島へ24時間の船旅が始まった。

船上では景色を眺めたり、会話を楽しんだり、それぞれの時を過ごした。出港後12時間ほど過ぎた頃、万次郎がホイットフィールド船長に救助された鳥島付近を通過し、土佐からどれだけの距離を流されて、遠い地にやってきたかを実感した。

●11月7日(月)

船で一夜を過ごし、到着数時間前になると、甲板でネイチャーガイドによる小笠原諸島の説明や海域に生息する鳥や海洋動物・生物などの案内に参加し、日本人参加者が米国人参加者に英訳をしたり、質問を通訳したりする風景が見られた。午前11時に父島二見港に到着すると、小笠原村役場の歓迎バナーに出迎えられて父島に上陸した。

午後は、宿泊ホテル近くの散策や、父島フォーラムに合わせて開催された『ジョン万次郎展～その時代の人々～』を見学した。

その後、小笠原村議事堂で、村長や村役場による歓迎式典が開かれ、父島の歴史に深くかかわる万次郎、ホイットフィールド、ペリー、セーボレーらの子孫たちの時代を超える再会を祝った。また、先の戦争で焼失したペリー提督からセーボレー家に贈られた31星星条旗に代わり、5代目子孫らによる新たな50星星条旗の授与贈呈がされた。

●11月8日(火)

朝8時半に、聖ジョージ教会に集合し、欧米の入植者やその子孫たちのよりどころとなってきた教会の謂れについて説明を受けた後、セーボレー孝氏のガイドによる父島歴史探訪ツアーへ出発した。セーボレー家墓地、咸臨丸船員墓地など、父島と小笠原の海洋の歴史にまつわる史跡や戦跡などを巡った。途中ペリー艦隊の船員14名が遭難したと伝わる場所を見下ろせる高台で、黙とうを捧げた。

昼食は、父島の美しいビーチでピクニック風にお弁当を食べ、小笠原の風景と共に自然を満喫する。その後、ペリー提督が\$50で購入したという土地を高

台から見下ろしながら説明を受け、都立小笠原高校へ向かった。高校では、万次郎ら子孫たちによる父島に関連する講義とジョン万次郎論大会で特別賞を受賞した中・高校生によるスピーチの発表が行われ、その後、高校生たちと参加者たちによる交流を楽しんだ。同高校では、コロナ禍が始まってから交流会らしき行事が一切行われてこなかったため、今回の高校での交流会は3年ぶりに初めて開催され、大変歓迎された。

●11月9日(水)

父島フォーラムのために特別に用意されたアクティビティ・ツアーに参加した参加者たちは、父島の海洋と戦跡を含む陸上の自然を存分に味わった。

夜には、小笠原ビジターセンターで、ボニン・インタープリター協会主催による『子孫が語る日米のかけ橋 ジョン万次郎』が開催され、島民たちは万次郎ら子孫たちの訪島を歓迎し、交流を図った。

父島での最後の夜を過ごす参加者たちは、小笠原高校の高校生たちとの食事会や、ナイトツアー、父島のグルメ、夜の港の散策など、それぞれの時間を楽しんだ。

●11月10日(木)

出港までの父島での最後の時間を、参加者たちは伝統工芸を体験したり、お土産の買い物をしたり、ビーチを楽しんだり最後の時間を過ごし、午後3時、棧橋とボートから島民たちに見送られて父島を後にした。

24時間船旅の帰路は、船内で思い出を語り合ったり、父島で出会った旅人と情報交換したり、ゆったりとした時を過ごした。

●11月11日(金)

予定通り午後3時に竹芝に到着。往復48時間、6日間のアメリカ人と日本人参加者が一緒に過ごした父島への旅程が終了した。

●11月12日(土)

午前中、それぞれの時間を東京で過ごしたアメリカ人参加者たちは、午後に各自フライトに合わせて、羽田あるいは成田から帰路へ就いた。

メディア掲載：

- 長野朝日放送 11月3日

<https://news.yahoo.co.jp/articles/7905eb6a00da9db8349aa5e3d1b39204e2d05b54>

- 信濃毎日新聞 11月5日朝刊

- 北信ローカル 11月11日

- 須坂新聞 11月12日

- Goolightメディア <https://vimeo.com/780936226>

- 町報おぶせ No. 1072

- 江戸楽 Edogaku 2023年1月号 No. 165 (12月20日発行)

- 朝日新聞 12月27日朝刊
- 朝日新聞 Digital 12月29日
<https://digital.asahi.com/articles/ASQDT6S1KQDQOXIE01C.html>
- The Asahi Shimbun digital 2023年1月22日
<https://www.asahi.com/ajw/articles/14811092>

3. 第30回日米草の根交流サミット2023オハイオ大会準備

令和5年度の第30回日米草の根交流サミット2023オハイオ大会兵庫・開催について、以下のような準備を進めた。

開催地： オハイオ州コロンバス及び周辺地域

開催日： 2023年9月19日(火)～26日(火)

共催： セントラルオハイオ日米協会(JASCO)、CIE-US

地域分科会： 以下の8市での分科会を開催することとし、準備を進めた。

- ①コロンバス ②ダブリン ③デラウェア ④メリーズビル
- ⑤ベルフォンテン ⑥トロイ ⑦シドニー ⑧フィンドレー

式典及びレセプション： JASCO 主催、日米草の根交流サミット実行委員会の運営にて以下の会場を用意した。

9月20日(水) 開会式典及び歓迎レセプション：オハイオ州議会議事堂

9月24日(日) 閉会式典及びフェアウェル・パーティー：

オハイオ動物園 アフリカ・イベントセンター

宿泊ホテル：ルネッサンス・コロンバス・ダウンタウン・ホテル(9/19-21 2泊)

エンバシー・スイーツ・コロンバスマーダブリン(9/24 1泊)

オプション・ローカル・ツアー： 大会2日目、9月20日(水) 式典前のローカル・ツアーには以下の4コースを用意した。

- A. 「歴史コース」コロンバス・シティー&ネイティブ・アメリカン
- B. 「文化コース」アーミッシュ・カントリー
- C. 「産業コース」自動車産業
- D. 「スポーツコース」オハイオスポーツ:アメフト&ゴルフ

ポスト・サミット・オプション・プログラム：大会終了後のプログラムには以下の2プログラムを設定した。

- 1. 万次郎の足跡をたどるフェアヘイブ(ホームステイ2泊)と古都ボストン(1泊)
- 2. ミシシッピー川の源流ミネソタ州でホームステイ(2泊)

参加者募集活動： オハイオ大会への参加者募集のため、下記の活動を行った。

- ① 募集パンフレットの作成
- ② 日米草の根交流サミット2022での告知
- ③ メール・SNS・他での配信

4. 第31回日米草の根交流サミット 2024 和歌山大会開催準備

コロナ禍の影響のため延期が続く和歌山大会は、引き続き和歌山県庁国際課及び和歌山日米協会の協力のもと、第31回日米草の根交流サミット大会として以下の通り準備を行った。

開催時期：2024年6月～7月を予定

共催団体：和歌山県、CIE-US

地域分科会：以前より進めている以下の9市町での分科会を開催することとし、各自治体及び団体に引き続きの協力を仰いだ。

①和歌山市 ②橋本ユネスコ協会 ③湯浅町 ④上富田町 ⑤田辺市
⑥白浜町 ⑦串本町・南紀国際交流協会 ⑧那智勝浦町 ⑨新宮市

オープニング式典&歓迎レセプション：和歌山市内

クロージング式典&フェアウェル・パーティー：田辺市

宿泊ホテル：和歌山市内（2泊）、白浜町・田辺市付近（1泊）

5. 2025年以降日米草の根交流サミット大会開催準備

2025年以降の日米草の根交流サミット大会の開催候補地として、過去大会開催地の自治体や協力者、及びCIE-USと全米日米協会の助言を得ながら、以下の関係各所へのアプローチやコネクションづくりを進めた。

米国：フィラデルフィア、ハワイ、フロリダ、アラバマ他の各日米協会及び日米交流関係団体

日本：富山、沖縄、新潟、秋田、長野他の自治体や各国際交関係団体など

6. 情報の発信

- 1) ニュースレター「草の根通信」を年度内に4回制作。
ホームページに掲載するとともに、必要部数を印刷して配付した。
草の根通信 110号(3月)
草の根通信 111号(6月)
草の根通信 112号(9月)
草の根通信 113号(12月)
- 2) 活動報告書(アニュアル・アクティビティ・レポート)の発行
・ 2022年版発行
- 3) ホームページ、Facebookを通じた発信
大会告知、ニュースレター、ウェブイベントの告知、活動情報等を掲載した。

以上

令和4年(2022年)度事業報告書 附属明細書

令和4年1月1日～令和4年12月31日

特になし。

- 参考資料として以下を配付
 - － 2022年版活動報告書(アニュアル・アクティビティ・レポート)
 - － 日米草の根交流サミット2022 報道掲載情報
 - － 日米草の根交流サミット2023 オハイオ大会 募集パンフレット